

令和4年大船渡市教育委員会第12回定例会会議録

1 日 時

令和4年12月20日（火） 午後2時から午後3時10分まで

2 場 所

大船渡市役所 教育委員会会議室

3 出席委員の氏名

教 育 長	小 松 伸 也
教育長職務代理者	柏 崎 正 明
委 員	村 谷 志 保
委 員	鈴 木 晴 紀
委 員	清 水 恵 子

4 説明等のため出席した職員

教 育 次 長	遠 藤 和 枝
学校 教育 課 長	佐 藤 真
生涯 学 習 課 長	山 岸 健悦郎

5 議 事

議案第1号 令和4年大船渡市議会第4回定例会に追加提案する、教育に関する事務について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成することについて

6 報告事項

(教育次長)

① 大船渡市市制施行70周年記念「第9回大船渡市こども郷土芸能まつり」及び「黄金けせん！民俗芸能大祭 part 6」の開催について

② 令和4年度大船渡市立博物館展示事業 特別展関連講演会の実施結果について

(学校教育課)

① 第5回市内小・中学校長会議の開催結果について

② 令和4年度市内小・中学校の冬休み期間について

(生涯学習課)

① 令和4年度大船渡市地区公民館並びに地域公民館役職員等の感謝状贈呈者の決定について

② 令和4年度明治大学連携講座「金融リテラシー底上げの鍵は、キャッシュレスにあり」の実施状況について

7 会議の概要

(教育長)

- ・令和4年大船渡市教育委員会第12回定例会の開会を宣言する。
- ・令和4年第11回定例会の会議録について、質問、意見を求めた結果、教育委員の承認を得る。
- ・諸報告事項について、事務局等の説明を求める。

(教育次長)

- ・別添資料等により報告する。

(学校教育課長)

- ・別添資料等により報告する。

(生涯学習課長)

- ・別添資料等により報告する。

(教育長)

- ・追加報告を求める。
- ・追加報告がないことを確認後、報告事項についての質問、意見を求める。

(教育長職務代理人)

- ・副読本編集委員会における防災副読本の取組状況や内容構成について伺う。

(学校教育課長)

- ・来年度から、防災副読本を改訂して使用する計画であり、内容は現在検討中である。

(教育長職務代理人)

- ・県内で、防災副読本を授業で活用している市町村はあるか。

(学校教育課長)

- ・大槌町で作成していると聞いているが、多くは県が作成した副読本を活用している。

(教育長職務代理人)

- ・県内各市町村の副読本を参考にすると、編集委員は作業が進めやすい。

(学校教育課長)

- ・沿岸被災地の副読本を参考にする。

(委員)

- ・学力向上研究委員会は、小中学校の接続のほか、ICTの活用や指導法の情報交換など、効果的に運営されている。
- ・学力検査・知能検査結果の分析を、2学期以降の授業に活かしている。CRTも市で行うことが望ましいとあるが、予算面で厳しいかと感じた。
- ・hyper-QUは効果的に活用されているが、家庭の負担が増えていることが課題としてあげられている。心のサポート等、個々の指導に生かしていることをしっかりと家庭に説明すれば、理解を得られるのではないか。
- ・ALTの学校訪問は、効果的に活用されており、以前に比べ、学校懇談会などでは指導者、子どもたちが英語で話す時間が随分増え、教科化の効果を感じた。

(学校教育課長)

- ・学力向上研究委員会は、小・中学校の委員でグループを構成し、小学校の授業を研究している。小学校の子どもに配慮したきめ細やかな対策と中学校の専門的な視点が合致して、授業改善につながると考えている。

- ・市が全校に実施する学力検査は、年度当初に行う小学校2年生、5年生、中学2年生を対象とするNRTテストである。CRTテストは、各学校で個々に実施している。
- ・hyper-QUは、クラスの人間関係や個々の満足度等のエビデンスをもとに子どもにアプローチできるため、各家庭に趣旨や有効性を説明し、理解を得ていきたい。
- ・ALT5人は比較的若く、子どもたちからとても慕われている。外国語は新しい教科なので、モデル授業を実施し、授業の在り方について研修会を重ねたことが外国語に親しむ授業の定着につながった。

(委員)

- ・hyper-QUは、年2回実施する学校が大半か。

(学校教育課長)

- ・2回の実施が望ましいが、回数よりデータを学級経営にどう役立てるかが重要となる。ベテランの先生は、通常のアンケートで子どもの状況を把握し、グループ協議を活性化するなど学級づくりに役立てている。校内でベテランの先生が若手の先生に助言する取組もいいと思う。

(教育長職務代理者)

- ・大船渡市総合教育会議で、確かな学力の育成について、課題改善に向けて議論したが、学力検査後の補充指導の時間がなかなかとれていないのが実態である。学習の未定着部分を補充し、年度内に学習内容の定着を図っていくことが大切だ。1学期末に検査結果を教科ごとに分析し、2学期以降の指導方針を話し合った学校があった。その事例を市全体で共有して取り組めば、低下傾向にある学力の向上につながるのではないか。

(学校教育課長)

- ・事後指導を充実し、取りこぼしなく次の学年に送ることが原則であるため、校長会議を通じて効果的な学校の実践例を紹介する。

(委員)

- ・大船渡市総合教育会議では英語教育については、ALTの活用のほか、英語検定補助が効果的であり、他の教科に広げてはどうかとの意見があった。学力向上研究委員会では、英語以外の教科に対する取組をどのように考えているか。

(学校教育課長)

- ・学力向上研究委員会は外国語に特化してきたが、学習状況調査の結果をもとに課題を洗い出したところ、国語、算数も取組が必要と考えている。両教科の低下している領域については、文書の資料のみでなく、授業の仕組みづくりを目的としたモデル授業の映像化を進めている。有効とされるグループトークやペアトークなどを含めて授業の在り方の方向性を検討していく。

(委員)

- ・とんとん教室は、現在、継続的に利用している児童生徒がいないとのことだが、不登校傾向の子どもは相当数いると思う。利用につながらない要因は何か。

(学校教育課長)

- ・昨年度、とんとん教室を知らない学校があり、今年度はチラシを作成し、全校配付した。何件か照会があり、配付の効果はあったが、不登校傾向の子どもは、全く自宅か

ら出てこないか、学校には行くが教室には入れないなど、状況が様々であり、とんとん教室がニーズに合えば利用している。

(委員)

- ・とんとん教室では、訪問指導はしているか。

(学校教育課長)

- ・本人が来たいときに通っている状況であるため、訪問指導はなかなかないのが現状である。しばらく通って来ない場合には、状態に応じて、電話で様子を確認することはあるかもしれない。

(委員)

- ・訪問指導は自宅か。

(学校教育課長)

- ・今後の検討課題ではあるが、子どものニーズに合うかなどの問題もあり、まずは学校が家庭訪問をすることを考えている。

(委員)

- ・教職員多忙化解消対策は、各学校の取組が功を奏して職員の意識が変化し、時間外労働が減少している。諸業務のある副校長と教務主任の負担軽減が課題だ。

(学校教育課長)

- ・多忙化解消対策は、教職員の意識が変化していることを校長から報告を受けている。各学校で取組んでいるアクションプランを今後も進めていく。一方で、突発的な対応などで副校長が業務多忙であり、今後も校長を中心に職員の健康管理に努める。

(委員)

- ・博物館スクールは、縄文時代の貝塚遺跡などから郷土の歴史を知る上で大いに参考になる。碁石海岸は地層を実際に見ることができるので理科学習にも活用可能であり、博物館の利用促進を図りたい。

(教育次長)

- ・博物館スクールは、今年度2校が利用しており、来年度の利用促進のために校長会議に提出したものである。博物館では、市の史跡などを子どもたちに教えていかなければならないと認識しており、学校への働きかけを継続していく。

(教育長)

- ・地層を見るには、潮の満ち引きを考慮する必要があるので、博物館に相談してほしい。

(委員)

- ・地層を見た子どもたちがすごく感動したことがあり、画面で見るとは全く違うので、碁石海岸の地層は貴重だと思う。

(教育次長)

- ・碁石海岸の地層は危険で案内が困難な部分もある。地質学専門の学芸員が工夫して説明を行っているが、今後、現地へのアプローチについても検討する。

(教育長職務代理者)

- ・4年ぶりに開催される新春四大マラソンは、走ることに喜びを感じている多くの人たちから歓迎されていると思う。スポーツ振興に大きな役割を担ってきた長い歴史があり、感染予防対策をしっかりと行い、無事成功して、来年度以降も継続できるよう強く

願う。

(生涯学習課長)

- ・市制施行 70 周年の記念事業でもあり、関係各位の協力で開催に漕ぎつけたので、感染対策をしっかりと行い成功させたい。

(教育長職務代理人)

- ・河川敷で多くの中学生が走っているのを見ていたが、教育委員への案内を受け新春四大マラソンがあるとわかった。

(生涯学習課長)

- ・参加者の募集は行っていたが、開催の有無について注目度が低かったので、周知方法を検討する。

(教育長)

- ・申込状況はどうか。

(生涯学習課長)

- ・10 マイルロードレースは多くの申込があるが、駅伝は例年より少ない。

(委員)

- ・多忙化解消対策は、各学校で工夫しながら取り組み、教職員の意識が変化していることに安堵した。職員間のコミュニケーションが大切だと思うが、上半期の取組結果の評価が高く、希望が持てた。

(学校教育課長)

- ・教職員間のコミュニケーションが取れていれば、課題を解決し、やりがいを感じるこ
とができる職場となる。管理職と職員との温度差についても、解消に向けて取組む。

(教育長)

- ・その他、質問、意見がないことを確認後、諸報告を終了する。

(教育長)

- ・開議を宣言する。
- ・日程第 1、会期の決定について、会期を 1 日とする。

(教育長)

- ・日程第 2、議案第 2 号は資料が部外秘のため、秘密会にしたいと考えるがよろしいか。

(教育委員)

- ・異議なし。

(教育長)

- ・それでは、会議規則第 13 条第 1 項の規定により、秘密会とする。

一般傍聴人は退席を願う。

～議案第 1 号 令和 4 年大船渡市議会第 4 回定例会に追加提案する、教育に関する事務
について定める議会の議決を経るべき事件の議案を作成することについては、秘密会の
ため会議録省略～

(教育次長が説明し、教育長が採決を諮る。全員異議がなく、議案第 1 号は原案どおり
可決される。)

(教育長)

- ・秘密会を解き、会議を続行する。

(教育長)

- ・その他、質問・意見等がないことを確認後、議案審議を終了する。
- ・令和4年大船渡市教育委員会第12回定例会の閉会を宣言する。

会議録作成者 教育長 小松伸也

会議録署名者 教育長

教育長職務代理者

委員

委員

委員